



兵庫消防団第4分団

兵庫4分団 - 1

災も発生し
ましたが、
現在のきれ
いな街並み
に復興の力
を感じ取る
ことができ

頑張れ！「兵庫4分団-1」

執筆者 兵庫消防第4分団 分団長 後藤 浩嗣

兵庫区の中心部西側、面積にして約150haを管轄する兵庫消防団第4分団には30名の団員がおり、うち

12名が自営業、11名が勤め人、その他が7名という構成で、女性団員も2名在籍。しかし、訓練や行事出席する顔ぶれはいつも同じ…というのが実情。この個性派集団をまとめるのは、なかなか大変です。

さきの大震災では私たちの地域も甚大な被害を受け、中道・下沢・上沢・松本・大井・会下山地域では火

ます。防災福祉コミュニティや企業は熱心に防災活動に取り組んでおられ、私たちは防災リーダーとして、その支援活動も行っています。

さて、私たちのまちのヒーローを紹介します。色白の「彼」は、身長179cm、横幅147cm、体重70kg。名前は、「兵庫4分団-1」（白の軽トラック）です。「彼」の背中には小型動力ポンプのほか、「兵庫33」（兵庫消防署のポンプ付き救助車）にも負けないくらい!?の各種資機材が積載されています。しかし「彼」は、「重たい！」などの愚痴ひとつ言わず、毎日元気に管内を走り回っています。その「彼」が実力を発揮してくれたのが、昨年、連続放火事案の対応に苦慮していたときの事でした。まだまだ寒い日の続く3月のある日、第5分団管内をパトロール中、「兵庫区北逆瀬川町 番、災

害通報受信中」という無線を傍受し、私は「4分団-1」で現場へ向かえー」と無線で分団員に指示を与え現場へ急行しました。

そして「4分団-1」からポンプを降ろして消火栓に部署し、消火活動を行なうとともに、付近の警戒・検索活動を行いました。これは、建物間に置かれていた木製パレットに何者かが火を付けたものでしたが、「彼」がいてくれたからこそ速やかに対応でき、隣接建物への影響もなく済みました。

このような消防団活動ができるのも、先輩団員、兵庫消防署員の皆さま方のご指導があったからで、感謝の気持ちでいっぱいです。これから、立派な「消防団の一員」である「彼」とともに頑張っていこうと思っ



ています。温かく見守ってやってください。